



さとく ゆたかに たくましく
宮城県多賀城高等学校

軽音楽部 新人大会グランプリ

和歌山総文2021 出場決定

11月7日、専門学校デジタルアーツ仙台において第17回宮城県高等学校対抗バンド合戦新人大会が行われ、軽音楽部での部内選考を経て出場した2年生バンド・トロイカがオリジナル曲「終明」を披露しました。コロナウイルスの影響により無観客での実施となりましたが、大勢の観客を前にしているのかのようなパフォーマンスを見せ、新人大会では2年連続4度目となるグランプリを受賞しました。今大会は来年度に和歌山県で行われる第45回全国高校総合文化祭和歌山大会 紀の国わかやま総文2021の代表選考会も兼ねており、宮城県代表としての出場を決めました。



ベース担当 2年2組 但野来夢(田子中出身)

今回は無観客での開催となってしまいましたが、日々の地道な個人練習や客席を意識した「魅せる」パフォーマンス練習を積み重ね、練習通りの実力を発揮することができました。その結果、多賀城高校軽音楽部で4度目、そして2年連続、初のスリーピースバンドでのグランプリ受賞となりました。顧問の先生、軽音楽部の仲間、保護者の皆様、そして応援して下さいましたすべての皆様、本当に

軽音楽部 リモート大会

TEENAGE KICKS 準グランプリ

京都を拠点として関西地区を中心に行われている高校軽音楽部コンテスト「TEENAGE KICKS 京都大会」の第20回大会が行われました。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により演奏動画を撮影するリモート形式で、応募資格を全国に拡大し開催されました。全国高等学校軽音楽コンクールに出場する関東の強豪校が数多くエントリーする中、本校3年生バンド「Innocent Geeks」が準グランプリを受賞しました。



ギター担当 3年6組 西條雅貴(利府中出身)

部室での練習は1バンドしかできないため、お借りしている教室での個人練習が活動の大半を占めます。そのため、大会で結果を残すためにはバンドでの時間ではない効率よく練習できるか、そして、その時間を無駄にしないよう充実した個人練習を行うことができるかにかかっています。今回僕たちが準グランプリを受賞することができたのは、顧問の先生のアドバイスや先輩方の演奏で参考になる部分を取り入れ、自分たちの演奏の改善点を見つけ出し、効率よく練習を進めることができたからだと思っています。限りある時間を有意義に使い、報われる努力を多くこなすことができたからこそその受賞でした。

部活動を引退した今、次に待っている大学入試に向けて、今回学んだことを心に留めて受験勉強に取り組んでいきたいと思っています。

女子弓道部 東北大会ベスト8

11月22日、岩手県宮城武道館弓道場で東北選抜大会が行われました。新型コロナウイルスの影響で無観客試合となり、公開練習もありませんでした。本来、大会は3日間ですが、感染予防を考え、団体戦当日にマイクロスコープで行くという強行軍でした。惜しくもベスト8でしたが、それぞれがベストを尽くしました。応援ありがとうございました。

2年6組 平野帆乃香(七ヶ浜中出身)

テスト期間と重なり思った練習が出来ない状況での大会でしたが、個々の努力により普段通りの射をすることができました。決勝トーナメントでは惜しい結果となりましたが、後悔を引きずらず、次の大会に向け日々鍛錬してまいります。



災害科学科 栗駒・気仙沼巡検

10月26日・27日の2日間、災害科学科2年生が栗駒・気仙沼巡検に行ってきました。今年度は例年訪れている栗駒山麓ジオパークに加えて南三陸・気仙沼地区を巡り、山の災害・海の災害両面からの考察を重ねてきました。

初日は栗原市ジオパーク ビジターセンターを訪問した後、荒砥沢ダムに足を運び、岩手・宮城内陸地震の崩落崖を見学しました。午後は岩手県一関市の祭時災害遺構に移動し、事前学習で考察した落橋現場を実際に見学しました。講師の東北大学学術資源公開研究センター教授・高嶋礼詩先生から、地すべり災害の詳細を学び、宿舎では東北日本の地質構造についての講義をいただきました。



2日目は講師の阿部正人先生と合流し、手持ちのPCに資料を共有しながら南三陸町伊里前等で解説いただき、気仙沼市リアス・アーク美術館へ。見学ののち、副館長(学芸員)の山内宏泰先生とのディスカッションを行いました。午後は気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館の見学と、語り部の芳賀一郎先生による講話、南三陸町旧高野会館の見学などを行い、これまでの学びの総決算とし災害を改めて見つめ直す機会となりました。

2年7組 鈴木日陽(向洋中出身)

今回の巡検はとても有意義な時間になりました。学校関連の災害対応のお話は私の進路に直結しますし、地形的なところから起こった災害の話は地理が好きで私にとって非常に興味深い内容でした。東北大学の高嶋教授のお話は私たちの住んでいる地域と関連付けてお話をしてくださり、動画や図面で工夫されていて非常に分かりやすい講義でした。松島の褶曲のお話では、松島に坂が多いと感じるのは褶曲が原因なのかな?と疑問に思いました。ホテル観洋の伊藤先生のお話では、ありきたりなことを言っているかもしれないと不安を口にしていらっしやいましたが、現地で被災された方の「生の声」を聞かせていただいたようで本当に内容の濃いお話だったと思います。

生徒理科研究発表会

11月10日、東北大学サイエンスキャンパスホールおよび青葉記念会館において第73回宮城県高等学校生徒理科研究発表会が行われました。日頃の研究成果を発表するとともに、大学・高校の教員から直接質疑応答や指導を受けられる機会を通して、科学的思考力や課題発見・解決力、プレゼンテーション能力の向上を図るもので、本校からは科学部からの6題のほか、学校を代表して2年生の課題研究から4題、1年生の課題研究から1題を合わせた11題で参加しました。



会場では、新型コロナウイルス感染防止の観点から発表グループごとに個別に発表する形態となり、生徒間での交流が無かったことが残念ではありましたが、審査員からの質疑などを通して自分たちの研究の今後の指針や新しい気付きを得られる機会となりました。

2年7組 伊藤若菜(塩竈一中出身)

私たちは、昨年の10月から調査を始めたマクラギヤスデの生態に関する発表を行いました。私たちにとって初めての公の場での発表ということで、手間取ったりつまづいたりしたところもありましたが、無事に発表を終えることができました。時間制限や質疑応答などが設けられた本格的な発表会への参加で、大きく成長することができました。今後はさらに研究内容を深め、より良い成果を上げられるようにしたいと思います。